

中国の記事から (WTO/FTA・貿易・安全 ・その他)

2006年9月30日号

目次

- ◎国家質検総局、日本製食品の検疫強化を指示
【経済日報 2006年09月22日】
- ◎福建の日本向けウナギ蒲焼、ポジティブリスト制で大幅減
【国際商報 2006年09月22日】
- ◎今年の全国穀物生産量は4.9億トンの見込み
【国際商報 2006年09月26日】
- ◎燃料エタノールメーカーへの補助方法を変更
【経済日報 2006年09月27日】
- ◎武漢メーカー、ウイルス殺虫剤が国の生産認可得る
【中国化工報 2006年09月28日】
- ◎河南省、通年の穀物生産量5000万トン突破の見込み
【経済日報 2006年09月29日】

◎国家質検総局、日本製食品の検疫強化を指示

【経済日報 2006年09月22日】

国家質検総局(国家質量監督検験検疫総局。製品品質を管理する)は21日、9月7日に日本から輸入された食品の中から品質に関する安全性の問題が指摘されてから、わずか半月の間に浙江省、遼寧省、上海市、湖北省などの検疫部門はヒ素、鉛、カドミウム含有量の基準値及び酸化値が超過するなどの日本産食品を相次いで発見したと発表した。

同局によれば、浙江省検験検疫局は日本から輸入された冷凍サンマから基準値を超えるヒ素を検出、遼寧省検験検疫局は日本のサラダ油株式会社製の大豆油から基準値を超える鉛を検出、上海市検験検疫局は日本から輸入されたカレイからthiodanを検出、落花生の酸化値が中国の

基準値をオーバーしているのを発見した。関係部門はこれら製品の輸入を禁止した。これら製品は日本の検疫をパスし証書も取得している。国家質検総局はこれを受けて全国の検疫部門に対して日本から輸入される食品の検査を強化するよう指示している。

◎福建の日本向けウナギ蒲焼、ポジティブリスト制で大幅減

【国際商報 2006年09月22日】

福建省福州税関は、1～8月の全省日本向けのウナギ蒲焼輸出量は前年同期より16.1%減の1万4563トンとなったと発表した。日本の残留農薬規制強化策・ポジティブリスト制度が5月29日から実施されていることの影響で、福建省6～8月の日本向けのウナギ蒲焼輸出量は前年同期より34.8%減の4041トン、輸出額も同39.5%減の4926万ドルとなっている。日本は福建省産ウナギ蒲焼の最大の輸出先である。このため福州税関は業者らに対して、ウナギ蒲焼の安全品質管理を強化、ウナギ蒲焼の抗生物質残留規制体系を整備するよう呼びかけている。

◎今年の全国穀物生産量は4.9億トンの見込み

【国際商報 2006年09月26日】

中国国家糧油情報センターの尚強民・主任は、18日、2006年の全国穀物生産量は4億9千万トンに達するとの見通しを示した。今年に入って西部・北部地区では干ばつ被害が大きく、農業部によると8月末現在、全国の自然災害による穀物被害の量は4千万トンに達している。また、2006年の主要穀物生産量は小麦が1億300万トン(前年比550万トン増)、水稻が1億8千万トン、とうもろこしが1億4100万トン(同160万トン増)に上る見込み。2006～2007年度には小麦は供給過剰、水稻は需給が均衡、とうもろこし輸出量は過去10年で最低の300万トンとなると予測されている。

このほかとうもろこし加工業は急成長しており全国のとうもろこし消費量は2000年が1380万トン、2005年が2500万トンを記録、2006～2007年度は1億3800万トン(前年度比500万トン増)ものとみられている。

◎燃料エタノールメーカーへの補助方法を変更

【経済日報 2006年09月27日】

国家発展改革委員会工業司のエタノール混合燃料普及責任者・劉群氏は、現在策定作業が進んでいる新しいエタノール混合燃料産業発展計画は年内にも完成する見通しであることを明らかにした。

現在、燃料用エタノールメーカーには国が一定の財政補助を行っているが、新計画では国が定めたエタノール混合燃料保護価格を実際のエタノール混合燃料販売価格が下回った場合に補助を行う方式に変更される予定である。原料となるバイオマス(農作物)生産拠点の建設には従来通りの補助を行っていく。

現在の燃料用エタノール価格は90号ガソリン価格に0.911を乗じたもので、これを販売会社

がガソリンと調合。現在の価格は90号ガソリン出荷価格5200元(1トン)に対して燃料用エタノールは4737元(同)、燃料用エタノールメーカーは実質的に赤字となっており、これを補うために国は財政補助を行っている。

◎武漢メーカー、ウイルス殺虫剤が国の生産認可得る

【中国化工報 2006年09月28日】

武大緑洲生物技術有限公司(湖北省武漢市)は、同会社が開発したウイルス殺虫剤原薬が農業部から専門家の審査をパス、国の「農薬登録証」を取得したことを明らかにした。1ミリグラムあたり1億のウイルスを含む対ナノアオムシ殺虫剤原薬。農薬登録証取得により、原薬から各種の農薬を量産することが可能となる。武漢大学の劉年翠・教授は1978年、ナノアオムシを自然死させる「ナノアオムシ顆粒体ウイルス」を発見、全国各地で同ウイルス製剤を用いた実験で成功を収めたが、国のウイルス殺虫剤産業化計画がないまま現在に至ってきた。

しかし、2007年1月からPOPs条約(残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約)で定められる物質を使用する高毒性有機リン系農薬5種の使用が禁じられるなど、ウイルス殺虫剤が注目を集めている。

◎河南省、通年の穀物生産量5000万トン突破の見込み

【経済日報 2006年09月29日】

河南省の統計局は、28日、2006年通年の穀物生産量が初めて5000万トンの大台を突破する見込みであることを明らかにした。生産者農家優遇政策により生産の積極性が向上、穀物作付面積は拡大、夏季に播種した穀物の面積、1ムー(1ムーは6.6アール)あたりの生産量、総生産量、買い上げ量などいずれも全国一となっている。

また、秋季の穀物播種面積は6354万6千ムー(前年同期比162万5千ムー増)を記録、生産量は220億kg(同11.5%増)の見込み。通年の播種面積は1億3955万ムー(同225万ムー増)、夏季・秋季の穀物生産量は計5055万トンと過去最高に達すると予測されている。

本情報は、株式会社日本能率協会総合研究所により 翻訳された中国の新聞記事をもとに、同社の許可を得て 独立行政法人農畜産業振興機構が整理したものです。
--